

●協働学習 ■同時進行型

実践タイトル 操作学習の前には実物投影機で説明を

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

実物投影機

・低学年の児童には、口頭での説明では理解ができない場合がよくある。実物投影機と大型テレビを組み合わせ、説明すると、分かりやすい。

実物(模型の時計)

・教師用の大型の時計ではなく、児童が使っている物を教師が操作し、それを大きく映すことがポイントである。

参考にしてほしいポイント

・時計の学習は児童が自由に時計の時刻を読めなければならない。そのためには児童同士の協働学習が有効だ。児童同士の協働学習の前に、大型テレビと実物投影機を使っての一斉指導がポイントとなる。これがしっかりとできていると、協働学習が混乱することなくできる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 15	・時計の読み方は個人差が大きい。それを埋めるために、大型テレビで操作を実演し、視覚に訴えて、理解を促進する。 ・個人が時計を読めるようになるまで、繰り返す。	・大型テレビ(52型) ・実物投影機 ・模型の時計 ・教師が説明している静止画(写真1)
展開 15 30	・児童は手元の模型の時計を操作し、大型テレビの時計を見て確認する。児童が持っているのと同じ時計が大型テレビに映っているので、確認しやすい。 ・慣れてきたら、大型テレビで確認することが少なくなる。	・大型テレビを見ながら児童が学習している静止画(写真2)
まとめ 30 45	・次に児童同士で問題の出し合いをする。大型テレビを使っての基本練習をすでにしてあるので、スムーズに、児童同士の協働学習ができる。	・時計を使って児童同士が問題を出し合っている静止画(写真3)



写真1: 大型テレビに時計を映し時刻の読み方の説明をする教師



写真2: 大型テレビを見ながら手元の模型の時計を操作



写真3: 児童同士で問題を出し合いより深く理解する

ICT活用への児童生徒の反応等

・「時計の見方」の基本をICTを使って分かりやすく行っておくと、児童は自信を持って2人組での学習に取り組む。2人組での活動が活発になり、コミュニケーションの基本を学ぶことにもつながった。

活用効果

評価の観点	・数量や図形についての知識・理解	具体的容容	・時計の見方に自信のない児童は大型テレビで確認できるので、安心して取り組むことができた。それを繰り返すことで、定着につながった。
-------	------------------	-------	--

実践の手応え

・一斉指導がしっかりとできると、ペア学習もスムーズにできることを実感。まずは基本、そして活用へとつながると思った。